

※実務経験のある教員による授業科目

### 授業概要

子どもにとっての「音楽」は「遊び」そのものでなくてはなりません。「わらべうた」は、遊びながらリズム感、音感、フレーズ感などを育てます。その豊かな遊びの経験が子どもの非認知能力を高めます。指導者は、たくさん遊ばせてから音楽的な気付きを促し、音楽の学びにつなげていきます。この方法は、決して幼児教育だけのものではなく、初等教育についても有効な考え方です。

この授業では、体育館等での野外わらべうたあそびと、音楽室での室内わらべうたあそび+音楽ワークを交互に行います。子どもの立場での体験と保育士・教員の立場からの視点を行ったり来たりしながら、子どもにとってどのような経験になるのか、遊びが学びにどのようにつながるのか、音楽的能力がどのように育まれるのかを予測し、保育や音楽の授業にどのように生かすかを考えます。また、グループ活動により、子どもを音楽に出会わせる方法や、出会った後に音楽の能力を高める方法を織り込んだ指導演習やそのためのプログラムづくりも扱います。講師の学校教員、東京都教育委員会指導主事の実務経験を生かし、新たな音楽教育指導者育成プログラムの追究を図ります。

### 授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	わらべうたあそび① 鬼きめ しぐさ
第 3 回	音楽ワーク① 拍とリズム 高い・低い ターとティティ
第 4 回	わらべうたあそび② 役交代 円隊形
第 5 回	音楽ワーク② ハンドサイン 音階 階名 音名
第 6 回	わらべうたあそび③ 隊列 減り増える
第 7 回	音楽ワーク③ 拍子 小節 線と間 五線
第 8 回	わらべうたあそび④ 鬼ごっこ じゃんけん
第 9 回	音楽ワーク④ フレーズ 構成
第 10 回	わらべうたあそび⑤ 門くぐり
第 11 回	音楽ワーク⑤ オスティナート
第 12 回	わらべうたあそび⑥ 交互唱
第 13 回	音楽ワーク⑥ カノン
第 14 回	指導演習リハーサル わらべうた歌唱記録提出
第 15 回	指導演習試験
第 16 回	実技試験（わらべうた）

### 到達目標

- (1) ハンドサインをマスターし、移動ド読み（階名読み）、音名読みの両方ができる。
- (2) 子どもの声の高さに合わせたわらべうたの範唱ができる。
- (3) 簡易譜（スティック・ノーテーション）、五線譜の読譜・記譜ができる。
- (4) 子どもの発達を踏まえたわらべうたあそびと音楽ワークの計画を立て実施できる。

### 履修上の注意

- ・最終的な目標は単純ですが、覚えること、身に付けることが数多くあります。そのため、休まないことが何より肝要です。
- ・心身の健康に留意し、マスクにより乾燥やウィルスから喉を守り、声を常によい状態に保ちましょう。

### 予習・復習

・Microsoft Teams への課題提示、チャンネルでのグループ作業、チャットへの課題の提出などがあります。また、わらべうたのレパートリーを覚え、維持するために、範唱音源を聴いて練習することが必要です。

### 評価方法

・わらべうたの歌唱 50% わらべうたワーク 20%、音楽ワーク 20%、授業への参加姿勢 10%

### テキスト

・プリント、電子資料（PDF データ）、音声データを適宜配布します。